

授業科目名： 知的障害児の理解と 教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内藤千尋 担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:知, 含む領域:なし)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【ストレートマスター】 知的障害児の認知特性、発達特性に基づいた教育課程や指導法に関する理解を深め、知的障害児教育の現代的動向や教育・支援の課題を検討することができる。</p> <p>【現職教員】 知的障害児の認知特性、発達特性に基づいた教育課程や指導法に関する理解を深め、現職経験を踏まえて多角的な視点から知的障害児教育の現代的動向や教育・支援の課題を検討することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【ストレートマスター】 知的障害児の有する障害特性や心理発達の特性に基づく教育課程、カリキュラムマネジメント、自立活動、指導法、ICT活用等の教育技術に関する基本的理解を深めると共に、諸外国の知的障害児教育の動向について学ぶ。</p> <p>【現職教員】 知的障害児の有する障害特性や心理発達の特性に基づく教育課程、カリキュラムマネジメント、自立活動、指導法、ICT活用等の教育技術に関して、現職経験を中心とする受講生自身の実践経験を踏まえて専門的理解を深めると共に、諸外国の知的障害児教育の動向について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、知的障害の定義と理解</p> <p>第2回：知的障害児教育の歴史</p> <p>第3回：特別支援教育における知的障害児教育の制度</p> <p>第4回：特別支援学校（知的障害）の教育課程：教育課程の変遷と要点</p> <p>第5回：特別支援学校と学びの場の連続性</p> <p>第6回：特別支援学級、通常学級と学びの場の連続性</p> <p>第7回：知的障害児教育における各教科の指導</p> <p>第8回：知的障害児教育における自立活動の指導</p>			

<p>第9回：知的障害児教育における情報化・ICT活用</p> <p>第10回：知的障害児教育における進路指導・社会的自立とキャリア教育</p> <p>第11回：知的障害児教育と医療・福祉・就労支援等との連携</p> <p>第12回：特別支援学級での実践</p> <p>第13回：スウェーデンにおける知的障害児教育の動向</p> <p>第14回：デンマーク・フィンランドにおける知的障害児教育の動向</p> <p>第15回：知的障害児教育の現代的課題・全体総括</p>
<p>テキスト</p> <p>指定なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>太田俊己，佐藤慎二編著，知的障害教育総論 改訂新版，放送大学教育振興会，ISBN:9784595321740，(2020年出版 放送大学教材，1529374-1-2011)</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>出席状況・受講態度（10%），小レポート・発表の質（20%），最終課題（70%）</p>

授業科目名： 肢体不自由児の理解 と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古屋義博 担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:肢, 含む領域:なし)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>肢体不自由児の発達特性, 特に感覚運動機能の特性を理解した上で, 特別支援学校(肢体不自由)での特別の教育課程や各教科の効果的な指導, 自立活動の「個別の指導計画」の作成, 「個別の教育支援計画」の活用などについて, 具体的に例示することができる。</p> <p>【現職教員】</p> <p>肢体不自由児の発達特性, 特に感覚運動機能の特性を理解した上で, 特別支援学校(肢体不自由)での特別の教育課程や各教科の効果的な指導, 自立活動の「個別の指導計画」の作成, 「個別の教育支援計画」の活用などについて, 具体的かつ多角的な視点から例示することができる。</p>			
授業の概要			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>小学校や特別支援学校等での教育実習など, 受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場면을数多く設定することで, 肢体不自由児の発達特性に関する高度な専門的知識を獲得するとともに, 特別支援学校(肢体不自由)や各教科の効果的な指導, 自立活動の「個別の指導計画」の作成, 「個別の教育支援計画」の活用などについて, 教育実践に資するような高度な専門的知識や技能の獲得を図る。</p> <p>【現職教員】</p> <p>現職経験を中心とする, 受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場면을数多く設定することで, 肢体不自由児の発達特性に関する高度な専門的知識を獲得するとともに, 特別支援学校(肢体不自由)や各教科の効果的な指導, 自立活動の「個別の指導計画」の作成, 「個別の教育支援計画」の活用などについて, 教育実践に資するような高度な専門的知識や技能の獲得を図る。</p>			
授業計画			
<p>第1回: 肢体不自由児の発達特性の理解 (1) 国際機能分類 I C F の効果的活用</p> <p>第2回: 肢体不自由児の発達特性の理解 (2) I C F に基づく実態把握の実際</p> <p>第3回: 肢体不自由児の発達特性の理解 (3) 事例研究</p> <p>第4回: 肢体不自由児の感覚運動機能の理解 (1) 感覚運動機能の特性</p>			

<p>第5回：肢体不自由児の感覚運動機能の理解（2）感覚運動機能の特性に基づく実態把握の実際</p> <p>第6回：肢体不自由児の感覚運動機能の理解（3）事例研究</p> <p>第7回：肢体不自由児の教科指導（1）学習指導要領第2章第1款4に示された配慮事項</p> <p>第8回：肢体不自由児の教科指導（2）ICT活用を含めた効果的な環境調整</p> <p>第9回：肢体不自由児の教科指導（3）事例研究</p> <p>第10回：特別支援学校（肢体不自由）で編成される特別の教育課程（1）その活用の仕方</p> <p>第11回：特別支援学校（肢体不自由）で編成される特別の教育課程（2）考慮すべき事項</p> <p>第12回：特別支援学校（肢体不自由）で編成される特別の教育課程（3）事例研究</p> <p>第13回：特別支援学校（肢体不自由）で行われる自立活動（1）個別の指導計画の意義</p> <p>第14回：特別支援学校（肢体不自由）で行われる自立活動（2）各教科等との関連</p> <p>第15回：特別支援学校（肢体不自由）で行われる自立活動（3）事例研究</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省（2017）特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示），海文堂出版</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>世界保健機関・障害者福祉研究会（2002）ICF国際生活機能分類 国際障害分類改定版，中央法規出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>事例研究の発表内容（40%），役割演技の状況（20%），提出されたレポート（40%）</p>

授業科目名： 病弱児の理解と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川池順也
			担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:病, 含む領域:なし)		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>病弱児の発達特性，身体疾患と精神疾患の症状や心理的特性を理解した上で，特別支援学校（病弱）における心理教育的支援について考察し，自立活動の「個別の指導計画」の作成，「個別の教育支援計画」の活用などについて，具体的に例示することができる。</p> <p>【現職教員】</p> <p>病弱児の発達特性，身体疾患と精神疾患の症状や心理的特性を理解した上で，特別支援学校（病弱）における心理教育的支援について，現職経験を踏まえて多角的な視点から病気がある子どもへの支援の実際や教育・支援の課題を検討することができる。</p>			
授業の概要			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>病弱児の有する心理発達の特性に基づく教育課程，カリキュラムマネジメント，自立活動，指導法，ICT活用等の教育技術に関する基本的理解を深めると共に，実際の病弱特別支援学校における授業の実際について学ぶ。</p> <p>【現職教員】</p> <p>病弱児の有する心理発達の特性に基づく教育課程，カリキュラムマネジメント，自立活動，指導法，ICT活用等の教育技術に関する基本的理解を深めると共に，現職経験を中心とする受講生自身の実践経験を踏まえて専門的理解を深めると共に，勤務校の実践上の課題について検討する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：がん当事者の教師の子どもに対する願いや思いについて</p> <p>第2回：身体疾患（内部疾患）のある児童生徒等の学習上または生活上の困難さについて</p> <p>第3回：AYA世代におけるがんの後遺症に対する困難さや教師によるフォローについて</p> <p>第4回：チャイルドライフスペシャリスト（CLS）による心理的支援について</p> <p>第5回：アレルギー疾患がある児童生徒への支援について</p> <p>第6回：アレルギーや心疾患がある児童生徒への支援について</p> <p>第7回：吃音がある児童生徒への支援について</p>			

<p>第8回：チック・トゥレット症の児童生徒への支援について</p> <p>第9回：ゲーム障害の児童生徒への支援について</p> <p>第10回：起立性調節障害の児童生徒への支援について</p> <p>第11回：病気がある子どものきょうだいへの支援</p> <p>第12回：LGBTQの児童生徒への支援について</p> <p>第13回：ヤングケアラーの現状と課題について</p> <p>第14回：ヤングケアラーの現状</p> <p>第15回：総括とテスト</p>
<p>テキスト</p> <p>指定なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>日本育療学会（2022）標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版，ジアース教育新社。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>出席状況・受講態度（10%），小レポート・発表の質（20%），最終課題（70%）</p>

授業科目名： 発達障害児の心理教育 アセスメントと支援	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田真吾 担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域：発、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 【ストレートマスター】 発達障害を中心に、支援対象となる子ども一人ひとりの成長を促進する「心理教育的援助サービス」のための基盤となる「心理教育アセスメント」の意義・方法を理解し、アセスメント結果に基づいた支援計画を協働して立案することができる。また、「チーム」学校としての支援体制とそのコーディネーションについて理解し、支援体制の構築のためのロードマップの例を示すことができる。 【現職教員】 発達障害を中心に、支援対象となる子ども一人ひとりの成長を促進する「心理教育的援助サービス」のための基盤となる「心理教育アセスメント」の意義・方法を理解し、これまでの実践経験とアセスメント結果に基づいた支援計画を協働して立案することができる。また、「チーム」学校としての支援体制とそのコーディネーションについて理解し、受講学生が学校現場で主体的に支援体制を構築するための具体的なロードマップを示すことができる。			
授業の概要 【ストレートマスター】 心理教育アセスメントツールの演習を通して、各種アセスメントの背景にある理論と方法論を習得する。その上で、仮想事例を用いたアセスメント結果に基づく支援計画と評価方法についての専門的な知識・技法の習得を図る。また、主に特別支援教育に関するチーム援助について、コーディネーション行動の演習を通して高度な専門性を理解し、具体的なロードマップを立案するための基本的な知識・技能の習得を図る。 【現職教員】 心理教育アセスメントツールの演習を通して、各種アセスメントの背景にある理論と方法論を習得する。その上で、仮想事例や受講学生の経験した実際の事例を扱い、アセスメント結果に基づく支援計画と評価方法についての専門的な知識・技法の習得を図る。また、実際の学校現場に活用できるコーディネーション演習を通して高度な専門性を獲得し、自ら支援体制構築のロードマップを立案するための知識・技能の習得を図る。			
授業計画 第1回：心理教育的アセスメントの意義と方法			

<p>第2回：子どものアセスメント概説：認知面・学習面・心理・社会面・進路面・健康面</p> <p>第3回：子どもを取り巻く環境のアセスメント概説：学級集団／風土・子どもと環境との折り合い ・援助サービスシステム</p> <p>第4回：心理検査の活用と限界</p> <p>第5回：長所活用型アプローチと支援計画の立て方</p> <p>第6回：自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援</p> <p>第7回：自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒に対するアセスメントの解釈と支援計画立案演習</p> <p>第8回：注意欠如多動症（ADHD）の理解と支援</p> <p>第9回：注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒に対するアセスメントの解釈と支援計画立案演習</p> <p>第10回：限局性学習症（SLD）の理解と支援</p> <p>第11回：限局性学習症（SLD）の児童生徒に対するアセスメントの解釈と支援計画の立案演習</p> <p>第12回：学習のユニバーサルデザイン</p> <p>第13回：発達障害児に対する基礎的環境整備と合理的配慮</p> <p>第14回：発達障害児に対する学校におけるチーム援助とコーディネーションの方法</p> <p>第15回：学校におけるチーム援助ロールプレイ演習</p>
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学校心理学会（編）（2016）学校心理学ハンドブック第2版「チーム」学校の充実をめざして．教育出版 ・熊上崇・星井純子・熊上藤子（著）（2024）【WISC-V・KABC-II対応版】子どもの心理検査 ・知能検査 保護者と先生のための100%活用ブック．合同出版 ・藤田和弘（著）（2019）「継次処理」と「同時処理」学び方の2つのタイプ．図書文化． ・トレイシー・E・ホールら（編）バーンズ亀山静子（訳）（2018）UDL 学びのユニバーサルデザイン クラス全員の学びを変える授業アプローチ．東洋館出版社． ・土橋圭子・渡辺慶一郎（編）（2020）発達障害・知的障害のための合理的配慮ハンドブック．有斐閣． ・石隈利紀・田村節子（著）（2018）新版 石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 学校心理学・実践編．図書文化社． ・石隈利紀・田村節子（著）（2017）石隈・田村式援助シートによる子ども参加型チーム援助 インフォームドコンセントを超えて．図書文化社． ・石隈利紀・田村節子（著）（2013）石隈・田村式援助シートによる実践チーム援助【特別支援教育編】．図書文化社．
<p>学生に対する評価</p> <p>演習での発表及び成果物（40%）、各回小レポート（40%）、授業参加態度等（20%）</p>

授業科目名： 行動障害の理解と支援	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松下浩之 担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:知、含む領域:発)		
授業のテーマ及び到達目標 【ストレートマスター】 主として知的障害のある子どもが示す行動障害あるいは「チャレンジング行動」、強度行動障害についてその特性や背景を理解した上で、科学的根拠にもとづいた支援計画を立案することができる。また、場面緘黙をはじめとした情緒障害について、科学的根拠にもとづいた支援の方法論について理解し、具体的な支援計画を例示できる。 【現職教員】 主として知的障害や発達障害のある子どもが示す行動障害あるいは「チャレンジング行動」、強度行動障害についてその特性や背景を理解した上で、これまでの教育実践経験を活かしつつ、科学的根拠にもとづいた支援計画を立案することができる。また、場面緘黙をはじめとした情緒障害について、科学的根拠にもとづいた支援の方法論について理解し、具体的な支援計画を例示できる。			
授業の概要 【ストレートマスター】 受講学生のこれまでの実践経験の振り返りや映像資料を通して具体的なイメージを共有しつつ、学術論文の精読や演習を通して、強度行動障害や場面緘黙への支援に関する高度な専門的知識を獲得するとともに、機能的アセスメントにもとづく支援の方法論や認知行動療法的アプローチを用いた具体的な支援計画立案技能の獲得を図る。 【現職教員】 教育現場におけるこれまでの実践経験の振り返りや映像資料を通して具体的なイメージを共有しつつ、学術論文の精読や演習を通して、強度行動障害や場面緘黙への支援に関する高度な専門的知識を獲得するとともに、機能的アセスメントにもとづく支援の方法論や認知行動療法的アプローチを用いた具体的な支援計画立案技能の獲得を図る。			
授業計画 第1回：強度行動障害の状態像と理解 第2回：応用行動分析学にもとづく行動のメカニズムの理解 第3回：チャレンジング行動の機能的アセスメント 第4回：ポジティブ行動支援と罰を用いない対応			

<p>第5回：機能的アセスメントにもとづく支援に関する論文精読（1）学校場面</p> <p>第6回：機能的アセスメントにもとづく支援に関する論文精読（2）生活場面</p> <p>第7回：機能的アセスメントにもとづく支援計画立案演習</p> <p>第8回：支援計画の評価と改善</p> <p>第9回：場面緘黙および情緒障害の状態像と理解</p> <p>第10回：段階的エクスポージャーと行動療法による支援</p> <p>第11回：メンタルヘルスと認知行動療法</p> <p>第12回：場面緘黙に対する認知行動療法的介入に関する論文精読（1）クリニックベース</p> <p>第13回：場面緘黙に対する認知行動療法的介入に関する論文精読（2）学校ベース</p> <p>第14回：場面緘黙の多様な状態像の理解と支援アプローチ</p> <p>第15回：家庭、学校、医療の連携した場面緘黙への支援</p>
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロバート・E. オニールら（著）三田地 真実・神山 努（監訳）（2017）子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック．金剛出版． ・ 若林上総・半田健・田中善大・庭山和貴・大対香奈子（2023）学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド．ジアース教育新社． ・ 園山繁樹（2022）場面緘黙支援入門．学苑社． ・ R・リンジー・バーグマン（著）園山繁樹（監訳）（2018）場面緘黙の子どもの治療マニュアル：統合的行動アプローチ．二瓶社． ・ エイミー・コトルバ（著）丹明彦（監修）（2019）場面緘黙の子どものアセスメントと支援：心理師・教師・保護者のためのガイドブック．遠見書房．
<p>学生に対する評価</p> <p>論文精読および演習での発表（40%）、各回のレポート（40%）、参加態度等（20%）</p>

授業科目名： 特別支援教育の現代的課題 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 古屋義博・吉井勘人
			担当形態： 複数
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:なし, 含む領域:知・肢・病・発)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【ストレートマスター】 特別支援教育に関する基本事項を理解した上で、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室の実践を理解し、今後の特別支援教育に求められる課題を捉えることができる。</p> <p>【現職教員】 特別支援教育に関する基本事項を理解した上で、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室の実践を理解し、今後の特別支援教育に求められる課題と解決に向けた計画を多角的な視点から捉えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【ストレートマスター】 特別支援学校や特別支援学級あるいは通級指導教室の授業参観・見学を行うことで特別支援教育に関する現状を具体的に把握し、受講生自身の教育実習等での実践経験を踏まえた討議を通して、今後の特別支援教育の課題と解決に向けた専門的知識の獲得を図る。</p> <p>【現職教員】 現職経験を中心とする、受講生自身の実践経験を踏まえた視点から特別支援学校や特別支援学級あるいは通級指導教室の授業参観・見学を行うことで特別支援教育に関する現状を具体的に把握し、討議を通して、今後の特別支援教育の課題と解決に向けた多角的な視点からの考察をするための専門的知識の獲得を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：特別支援学校等の概要と見学の際の留意事項</p> <p>第2回：特別支援学校の実践（1）主に知的障害児を対象とする授業の観察</p> <p>第3回：特別支援学校の実践（2）主に肢体不自由児を対象とする授業の観察</p> <p>第4回：特別支援学校に求められる課題検討（討議）</p> <p>第5回：小学校の実践（1）主に特別支援学級の授業の観察</p> <p>第6回：小学校の実践（2）主に通級指導教室の授業の観察</p> <p>第7回：特別支援学級あるいは通級指導教室に求められる課題検討（討議）</p> <p>第8回：総括的考察</p>			

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版

文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版

学生に対する評価

見学への参加と討議の内容（50%），提出されたレポート（50%）

授業科目名： 特別支援教育の現代的課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松下浩之・永田真吾・内藤千尋 担当形態： 複数
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:なし, 含む領域:知・肢・病・発)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【ストレートマスター】</p> <p>特別支援教育に関する基本事項を理解した上で、障害のある子どもの教育、福祉、療育関係の施設や、障害に限らない特別な教育的ニーズを有する子どもに対する実践を把握し、今後の特別支援教育に求められる課題を捉えることができる。</p> <p>【現職教員】</p> <p>特別支援教育に関する基本事項を理解した上で、障害のある子どもの教育、福祉、療育関係の施設や、障害に限らない特別な教育的ニーズを有する子どもに対する実践を把握し、今後の特別支援教育に求められる課題と解決に向けた計画を多角的な視点から捉えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【ストレートマスター】</p> <p>障害のある子どもの教育、福祉、療育関係等の施設や、障害に限らない特別な教育的ニーズを有する子どもに対する福祉機関の見学を行うことで特別支援教育に関する現状を具体的に把握し、受講生自身の教育実習等での実践経験を踏まえた討議を通して、今後の特別支援教育の課題と解決に向けた専門的知識の獲得を図る。</p> <p>【現職教員】</p> <p>現職経験を中心とする、受講生自身の実践経験を踏まえた視点から障害のある子どもの教育、福祉、療育関係等の施設や、障害に限らない特別な教育的ニーズを有する子どもに対する福祉機関の見学を行うことで特別支援教育に関する現状を具体的に把握し、討議を通して、今後の特別支援教育の課題と解決に向けた多角的な視点からの考察をするための専門的知識の獲得を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：各施設等の概要と見学の際の留意事項</p> <p>第2回：障害児支援施設の実践（1）主に未就学児を対象とする支援実践の観察</p> <p>第3回：障害児支援施設の実践（2）主に就学児を対象とする支援実践の観察</p> <p>第4回：障害児支援施設に求められる課題検討（討議）</p> <p>第5回：その他の児童福祉施設の実践（1）社会的養護を必要とする子どもに対する支援実践の観察</p>			

第6回：その他の児童福祉施設の実践（2）主に不良行為等を示す子どもに対する支援実践の観察

第7回：特別支援教育の観点からみたその他の児童福祉施設に求められる課題検討（討議）

第8回：総括的考察

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

「増補 新版 障害児通所支援ハンドブック」

一般社団法人 全国児童発達支援協議会（監修），宮田広善、光真坊浩史（編集），山根希代子，酒井康年，岸良至（著），エンパワメント研究所，2024年

学生に対する評価

見学への参加と討議の内容（50%），提出されたレポート（50%）

授業科目名： 特別支援学校実習Ⅰ (課題発見実習)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 5単位	担当教員名： 古屋義博・松下浩之・川池順也 担当形態： クラス分け・複数
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 【ストレートマスター】 子どもの多様な教育的ニーズを把握する力や、地域や学校の課題に即した学校改善・学級改善・授業改善の構想力などを高めること、そして、将来、学校における有力な担い手となる教員の意識を身に付けることを目標とする。 【現職教員】 子どもの多様な教育的ニーズを把握する力や、地域や学校の課題に即した学校改善・学級改善・授業改善の構想力などを高めること、そして、将来、学校における有力な担い手となる教員の意識を身に付けることを目標とする。さらに、学校で中核的な役割を果たすミドルリーダーとしての意識や資質・能力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 【ストレートマスター】 1年次に連携協力校において実習する。連携協力校において、実際の教員と同じように教育活動に参加するとともに、授業観察や校内研究会等への参画などを通して、各自の課題の発見に取り組む。その課題を解決するために、計画を立て、実践し、実践で収集した資料やデータを分析していくことを繰り返し行っていく。また、子どもの多様な教育的ニーズを把握する力を高めるために、計画、実践、分析、改善のPDCAサイクルに基づいた授業づくりを行う。さらに、連携協力校の課題についても積極的に関わっていく。併せて、指導教員とのカンファレンスを通して、振り返りも行う。 【現職教員】 1年次に連携協力校において実習する。連携協力校において、実際の教員と同じように教育活動に参加するとともに、授業観察や校内研究会等への参画などを通して、各自の課題の発見に取り組む。その課題を解決するために、計画を立て、実践し、実践で収集した資料やデータを分析していくことを繰り返し行っていく。また、子どもの多様な教育的ニーズを把握する力を高めるために、計画、実践、分析、改善のPDCAサイクルに基づいた授業づくりを行う。さらに、連携協力校の課題についても積極的に関わっていく。併せて、指導教員とのカンファレンスを通して、振り返りも行う。 指導的立場の教員を育成するため、連携協力校において、学校の授業・教育研究を支援し、教育実践リーダー及び学校運営リーダーとしての子ども理解に基づいて即応力(授業計画力・			

授業指導力・授業分析力などを培う。

授業計画

実習計画に基づき、原則、週1日（8時間）×25週で実施する。

実習の内容は、原則として以下のものを行う。なお、連携協力校の状況や設定する課題に応じて、授業計画は異なることもある。

- ・実習計画の立案、課題の発見や焦点化、研究計画の作成（25時間）
- ・課題に対する学校や児童・生徒の実態把握、課題の吟味（25時間）
- ・他教師の授業観察、参与観察、予備的データ・資料の収集・分析（40時間）
- ・課題に即した教材研究・授業実践、データ・資料の収集・分析（40時間）
- ・授業カンファレンス（大学教員による指導・助言）（25時間）
- ・連携協力校の課題への支援（校内研への参画、ケースカンファレンスなど）（25時間）
- ・各自の課題の取りまとめ（10時間）
- ・振り返り（毎週実習報告書の作成。実習の最後には自己評価書の作成）（10時間）

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

実習への参加態度（実習報告書を含む） 40%

研究実践・授業実践、具体的な研究活動の展開 60%

授業科目名： 特別支援学校実習Ⅱ (課題達成実習)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 5単位	担当教員名： 古屋義博・松下浩之・川池順也 担当形態： クラス分け・複数
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【ストレートマスター】</p> <p>子どもの多様な教育的ニーズを把握する力や地域や学校に即した学校改善・学級改善・授業改善の構想力を高めることや、将来、学校において有力な担い手となる教員としての意欲や資質能力を身に付けること、また、各自の課題を達成することを目標とする。</p> <p>【現職教員】</p> <p>学校改善・学級指導・授業指導に関する高度な実践的専門性と、地域や学校の課題に即した学級改善・授業改善の構想力や実践力を身に付け、子どもの多様な教育的ニーズを把握する力をより高めることや学校において中核的な役割を果たすミドルリーダーとしての意識や資質・能力をより高いレベルで身に付けること、また、各自の課題を達成することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【ストレートマスター】</p> <p>2年次に「特別支援学校実習Ⅰ（課題発見実習）」を踏まえ、連携協力校において実習する。連携協力校において、実際の教員と同じように教育活動に参加するとともに、授業観察や授業実践、校内研究会への参画、研究計画に基づいた実践等を通して、各自の課題の達成に向けて、計画を立て、実践し、実践で収集した資料やデータを分析していくことを繰り返し行っていく。また、子どもの多様な教育的ニーズを把握する力をより高めるために、1年次の実習の実践を踏まえたより高度な計画、実践、改善のPDCAサイクルに基づいた授業づくりを行う。さらに、連携協力校の課題についても積極的に関わっていく。併せて、指導教員とのカンファレンスを通して、振り返りも行う。</p> <p>【現職教員】</p> <p>2年次に「特別支援学校実習Ⅰ（課題発見実習）」を踏まえ、連携協力校において実習する。連携協力校において、実際の教員と同じように教育活動に参加するとともに、授業観察や授業実践、校内研究会への参画、研究計画に基づいた実践等を通して、各自の課題の達成に向けて、計画を立て、実践し、実践で収集した資料やデータを分析していくことを繰り返し行っていく。また、子どもの多様な教育的ニーズを把握する力をより高めるために、1年次の実習の実践を踏まえたより高度な計画、実践、改善のPDCAサイクルに基づいた授業づくりを行う。さらに、連携協力校の課題についても積極的に関わっていく。併せて、指導教員とのカンファレンスを通して、振り返りも行う。</p>			

連携協力校において指導的立場の教員を育成するため、学校において学校の授業・教育研究を支援し、教育実践リーダー及び学校運営リーダーとしての子ども理解に基づいて即応力(授業計画力、授業指導力、授業分析力など)を培う。

授業計画

実習計画に基づき、原則、週1日(8時間)×25週で実施する。

実習内容は、原則として以下のものを行う。なお、連携協力校の状況や設定する課題に応じて・授業計画は異なることもある。

- ・実習計画の立案、課題の発見や焦点化、研究計画の作成(15時間)
- ・課題に即した学校や児童・生徒の実態把握、課題の吟味(25時間)
- ・他教師の授業観察、参与観察、予備的データ・資料の収集、分析(40時間)
- ・課題に即した教材研究・授業実践・データ・資料の収集・分析(40時間)
- ・授業カンファレンス(大学教員による指導・助言)(25時間)
- ・各自の課題の取りまとめ(20時間)
- ・連携協力校の課題への支援(校内研への参画、ケースカンファレンスなど)(25時間)
- ・振り返り(毎週実習報告書の作成。実習の最後には自己評価書の作成)(10時間)

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

実習への参加態度(実習報告書を含む) 40%

研究実践・授業実践, 具体的な研究活動の展開 60%

授業科目名： 特別支援教育課題研究I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古屋義博・松下浩之・川池順也
			担当形態： 複数
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:なし, 含む領域:知・肢・病・発)		
授業のテーマ及び到達目標			
【ストレートマスター】 特別支援教育に関する現状を理解した上で、特別支援学校や小学校などでの教育課題を捉え、その解決に向けた方針の構想や計画の立案について、具体的に例示することができる。			
【現職教員】 特別支援教育に関する現状を理解した上で、特別支援学校や小学校などでの教育課題を捉え、その解決に向けた方針の構想や計画の立案について、具体的かつ多角的な視点から例示することができる。			
授業の概要			
【ストレートマスター】 小学校や特別支援学校等での教育実習など、受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場面を数多く設定することで、特別支援学校や小学校などに存在する教育課題の解決に向けた方針の構想や計画の立案について、具体的かつ多角的な視点から例示するための高度な専門的知識や技能の獲得を図る。			
【現職教員】 現職経験を中心とする、受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場面を数多く設定することで、特別支援学校や小学校などに存在する教育課題の解決に向けた方針の構想や計画の立案について、具体的かつ多角的な視点から例示するための高度な専門的知識や技能の獲得を図る。			
授業計画			
第1回：研究課題の設定の仕方			
第2回：研究の進め方 (1)教育実践研究の意義や方法			
第3回：研究の進め方 (2)教育実践研究の具体例 (子どもの実態の把握)			
第4回：研究の進め方 (3)教育実践研究の具体例 (授業改善)			
第5回：連携協力校の実態と教育課題の把握			
第6回：研究課題の設定 (1)研究課題の設定と討議			
第7回：研究課題の設定 (2)研究課題の進捗と討議			
第8回：研究課題の設定 (3)研究課題の発表と討議			

<p>第9回：研究課題の設定 (4)研究課題の改善と討議</p> <p>第10回：課題解決案の策定 (1)課題解決案の設定と討議</p> <p>第11回：課題解決案の策定 (2)課題解決案の進捗と討議</p> <p>第12回：課題解決案の策定 (3)課題解決案の発表と討議</p> <p>第13回：課題解決案の改善 (1)課題解決案の省察</p> <p>第14回：課題解決案の改善 (2)課題発見実習との関連づけ</p> <p>第15回：総括的考察：特別支援教育課題研究IIへの道筋</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省（2017）特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示），海文堂出版</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>世界保健機関・障害者福祉研究会（2002）ICF国際生活機能分類 国際障害分類改定版，中央法規出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>発表や討議の内容（50%），提出されたレポート（50%）</p>

授業科目名： 特別支援教育課題研究II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古屋義博・松下浩之・川池順也 担当形態： 複数
科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育に関する科目 (中心領域:なし, 含む領域:知・肢・病・発)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>特別支援教育に関する諸課題の解決に向けた実践の報告とその過程を通して、その諸課題の解決に向けた実践を推進する力や、実践の成果と課題を分析する力を向上することができる。</p> <p>【現職教員】</p> <p>特別支援教育に関する諸課題の解決に向けた実践の報告とその過程を通して、その諸課題の解決に向けた実践を中心的な立場から推進する力や、実践の成果と課題を分析する力を向上することができる。</p>			
授業の概要			
<p>【ストレートマスター】</p> <p>小学校や特別支援学校等での教育実習など、受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場면을数多く設定することで、特別支援教育に関する諸課題の解決に向けた実践を推進する力や、実践の成果と課題を分析する力の向上を図る。</p> <p>【現職教員】</p> <p>現職経験を中心とする、受講生自身の実践経験についての省察とその発表などの対話的な授業場면을数多く設定することで、特別支援教育に関する諸課題の解決に向けた実践を推進する力や、実践の成果と課題を分析する力の向上を図る。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業の進め方と「特別支援教育課題研究I」の振り返り</p> <p>第2回：研究計画の共有</p> <p>第3回：解決案の実践報告 (1)素案の発表と討議</p> <p>第4回：解決案の実践報告 (2)修正案の発表と討議</p> <p>第5回：解決案の実践報告 (3)再修正案の発表と討議</p> <p>第6回：研究報告 (1年次修了レポート) の作成 (1)研究報告の意義や作成の方法</p> <p>第7回：研究報告 (1年次修了レポート) の作成 (2)研究報告の試行</p> <p>第8回：研究報告 (1年次修了レポート) の作成 (3)研究報告の修正</p> <p>第9回：研究報告 (1年次修了レポート) の発表と討議 (1)問題状況の把握</p> <p>第10回：研究報告 (1年次修了レポート) の発表と討議 (2)課題解決案の計画立案</p>			

<p>第11回：研究報告（1年次修了レポート）の発表と討議 (3)課題解決案の試行</p> <p>第12回：研究報告（1年次修了レポート）の発表と討議 (4)課題解決案の改善</p> <p>第13回：研究報告（1年次修了レポート）の発表と討議 (5)課題解決過程の省</p> <p>第14回：総括的考察(1)実施した解決案の有効性や価値</p> <p>第15回：総括的考察(2)課題研究IIIへの道筋</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省（2017）特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示），海文堂出版</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部），開隆堂出版</p> <p>世界保健機関・障害者福祉研究会（2002）ICF国際生活機能分類 国際障害分類改定版，中央法規出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>発表や討議の内容（50%），提出されたレポート（50%）</p>